

## 『イヤホン外音取り込みモード♡

## 双子の百合えっち見守りネキ プロローグ SS

～ 本編の前にお読みください ～

シスコンだって、笑われるだろうか。

私には五つ離れた高校生の双子の妹がいる。

名前は莉緒（りお）と凜（りん）。

二人とも同じ顔、同じ声、しぐさも風貌もそっくりそのまま鏡のようだ。

実の親でさえ前髪の分け目だけで区別しているが、私だけは一目で分かる。  
おっとり優しい目をして周りをよく観察しているのが、莉緒。

なにか面白いことはないかといつも五歳児のような目をしている方が、凜だ。

父はエンジニア、母は看護師。

この子たちが物心つく頃には、二人とも仕事に忙しくいつも家をあけていた。  
小さかった二人が寂しがらないようにと、そして女の子はお嫁に行ってバラ  
バラになってしまふからと、父は私たち三人をひとつの部屋で過ごさせるとい  
う教育方針をずっと曲げなかった。

「嫁に……ね。そんな時代じゃないっての」  
と、凜はいつも鼻で笑っていたっけ。

この双子はそんな忙しい両親に代わりに、まだ小学生だった私と、近所に住ん  
でいてたまに手伝いに来てくれる叔母とで育てたようなものだが、私は子供な  
がらにこの子たちが可愛くてしょうがなくて、愛情いっぱい育ててきたつもり  
だった。

でも、やっぱり父と母には勝てない何かがあったのか、ふたりはいつもひっそ  
りとお互いの孤独を埋め合うようにして過ごしていたように思う。

……だから、「こんな風」になってしまったことは、私は当たり前のことのよ

うな、自然な流れのような気がする。なるようになった。それだけのことだ。

ふたりは思春期になってから、いつしかお互いを意識しあい、最近とうとう付き合い始めたようなのだ。

……ようなのだ、というのは、私はふたりからは直接何も聞かされていないからであって、様子を見ていてそうなんだろうなと思っているだけだ。

ここだけで、こっそり告白したいことがある。

最近のイヤホンに外の音を收音して取り込むモードがあるのを知り、私は今、日々それを駆使してふたりを見守っている。

いけないことだとわかっている。

でも、ふたりが傷つくことのないように、悲しいことがないように、いつでもなにかからも守れるように、ふたりのことを何でも知っておきたい。

親心で……と言って、この罪は許されるだろうか。

本当は三姉妹でいつでも乗り越えてきたと思っていたのに、のけ者にされたような寂しさからじゃないだろうか。

そんな葛藤を抱えながら、いけないお姉ちゃんだけど……今日も私は、ふたりがこそこそとなにかを始めるたびにこのイヤホンを着ける。

……ふたりのそばに居たい。

↓ 本編へ続く